



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.28

令和4年7月8日

文責：校長 伊藤孝行

3年生で習字教室を行いました。

3年生になると毛筆の学習が始まり、現在、それぞれの学級で書写の時間に毛筆（お習字）に取り組んでいます。



今回は、書写指導の専門家の後藤先生始め4名の方に講師を依頼して、3年生の子どもたちに毛筆の指導をいただきました。後藤先生達に教えていただいた子どもたちは、「上手になっていくのが分かりました。」と言う感想を話してくれました。

今後とも、感染防止対策を講じながら外部の方を講師としてお招きして、子どもたちに専門的な指導を受ける機会を設けたいと思います。

下校前に指導をしていること。

30度を超える暑さが続き、子どもたちの熱中症が心配されます。

そこで、各学級で下校前に「水を飲むこと」「マスクを外して帰ること」を指導しています。

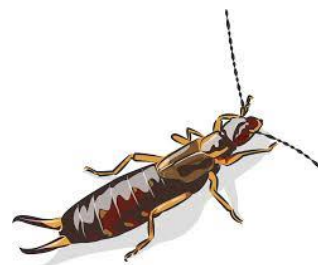
中には、マスクを外したくないという子どももいますので、全員に強制するものではありません。



子どもたちに育てたい力は、自分の体の調子を見ながら、水を飲んだりマスクを外したりするこ

とを見極められる「判断力」です。

「生き物の死にざま」という本から



ハサミムシ

最近読んだ本に「生き物の死にざま（草思社）」があります。この本は、セミから象まで29種類の生き物がどのように死んでいくかを書いた短編エッセー集です。

その中で特に心に残ったのが「子に身を捧ぐ生涯・ハサミムシ」のお話です。内容を簡単に紹介させていただきますと思います。

ハサミムシはその名前のとおり、尾の先についた大きなハサミが特徴の虫です。このハサミムシは、子育てをとても珍しい虫です。

卵を産んだ母ハサミムシは、卵にカビが生えないよう40日～80日間飲まず食わずで、卵を守り続けます。やがて卵から小さな子どもたちが生まれてきます。

ハサミムシは肉食ですが、子どもたちは自分で餌を獲ることができません。すると母ハサミムシは、子どもを慈しむように自分の腹の柔らかい部分を子どもたちに与えます。子どもたちは、我先に母ハサミムシの体を貪り食います。

母ハサミムシは少しずつ体を失っていきます。しかし、失われた体は、子どもの肉となり血となって命が受け継がれていくのです。

遠ざかる意識の中で母ハサミムシは、何を思うのでしょうか。どんな思いで命を終えようとしているのでしょうか。

親や祖父母による虐待で命を落とす子どもたちがいれば、自分の体を子どもに与え、子どもの命を育てる虫もいます。考えさせられます。